



Development Center

研究者と実践者が集う
看護の研究の場

実践と研究を積み上げながら、 常に新たな在宅看護を追求しています

私たちの目指すゴール

訪問看護の 現場の質向上に 貢献

在宅看護の研究者と実践者が集い、実践と研究を積み上げ、発信していくことで、在宅看護の質向上への貢献を目指します。

「新たな在宅看護の追求」を可能にする特長

研究が深まる 大規模 ステーション

本訪問看護ステーションでは、30名の看護師が在籍し、大阪府北摂地域を対象として300名弱（週平均訪問件数約400件）の利用者様を訪問しています（2022年11月現在）。認知症ケアやガン、心不全、難病、自宅看取りの看護を、小児から高齢者まで幅広く提供しています。また、認定看護師（慢性心不全、緩和ケア）や専門看護師（老人看護）、診療看護師も在籍し、質の高い看護実践を目指します。

大学や 研究機関との 共同研究

ステーション内の研究者が在宅看護の実践を検証するとともに、大学の研究室や研究者への研究フィールドの提供や研究者間での意見交換といった共同研究を展開しています。研究で得た知見を発信していき、本ステーションはもちろんのこと、全国の在宅看護を担う人々や療養者様に還元できることを目指します。

在宅看護を提供する訪問看護は未開発の部分が多く、在宅医療も日々進化しています。

医療の進化や社会のニーズに対応し、看護の力で市民の健康や暮らしを護るには、実践と研究を積み上げながら、常に新たな在宅看護を追求する必要があります。

そこで、なな一訪問看護デベロップメントセンターは研究者と実践者が集い、超高齢社会における日本の課題に対応できる看護の力を開発しています。

デベロップメントセンターの研究員

センター長 石川武雅

修士号（看護学）
大阪大学大学院博士後期課程 在籍
日本難病看護学会認定 難病看護師

研究テーマ
「神経筋疾患難病患者のコミュニケーション支援」



日本における「在宅看護」は、まだまだ歴史の浅い分野です。1992年に最初の「訪問看護ステーション」が誕生し、1994年には、看護師養成課程に「在宅看護論」が新設されました。近年、少子高齢化や多様な疾患、背景への対応ニーズから、訪問看護ステーション数は急速に増加しています。大学教育においても、2022年には「在宅看護論」から「地域・在宅看護論」へと名称変更し、単位数が増加しました。在宅看護への社会的ニーズは高まる一方で、他領域と比較すると在宅看護の研究はまだまだ少ない状況です。その一因として、訪問看護を担う実践者と研究者の距離が遠いことがあるように思います。デベロップメントセンターは、実践者と研究者が集い手を取り合うことで、在宅看護の質を向上し、さらには在宅療養を望む人々のよりよい生活の実現を手助けする場になりたいと考えています。



小玉伽那

修士号（医科学）
大阪大学大学院博士課程 在籍

主な研究テーマ
「ICTを用いた看護師業務支援の研究」

看護師の業務負担軽減を目指して、電子問診システムなどの研究開発を行っています。



金谷玲子

修士号（看護学）
大阪大学大学院博士後期課程 在籍

主な研究テーマ
「大阪府国保データベースを用いた認知症者の在宅療養機関と診療記録・介護記録との関連」

大阪府の国民保険データベースを用い、認知症高齢者の在宅療養期間と医療保険記録、介護保険記録との関連を分析しています。



高井(深田)悠花

大阪大学大学院博士前期課程 在籍

主な研究テーマ
「在宅現場におけるアドバンスケアプランニング（ACP）」

本人が望んだ終末期のあり方を達成するための在宅医療現場の役割は大きく、在宅におけるACPの効果を追求しています。

顧問 勝真久美子

修士号（教育学）
なな一訪看護ステーション 統括管理者
大阪大学医学部保健学科 招聘准教授

実践の場がすぐ傍にある環境で研究することは、現場の課題発見や解決に取り組むセンスを磨くことができ、研究者の成長につながると考えています。



主任研究員 関口(山下)亮子

博士号（看護学）
研究テーマ
「在宅心不全患者の生活に沿った療養行動支援」
「在宅心不全患者のエンドオブライフケア」
「訪問看護師の心不全看護実践に関する継続教育」



訪問看護が必要な方は増加傾向にあり、今後ニーズが高い領域です。一方で、提供される看護ケアの質や、病院－在宅の連携および医療－介護の連携など、未整備な部分も多くあります。訪問看護の現場の課題を解決できるために、よりよい看護を提供できる訪問看護師を育成するために、研究者と実践者をつないで現場の看護の質を向上できる知見を創出することがデベロップメントセンターの使命です。

研究者かつ実践者である私たちの強みは、日々看護を行う中で身を以て現場のリアルな状況や問題点を理解している事、フィールドで調査を実施する際の苦労が分かり現場スタッフや患者さん・家族の負担に配慮した現実的な調査計画と一緒に検討できる事です。訪問看護の場に興味のある研究者の皆さま、現場の看護の質の向上に向けて是非協働しましょう！

協力をいただいている大学研究室・研究者



大阪大学大学院医学系研究科 保健学専攻
看護実践開発科学講座 老年看護学教室

教授 竹屋 泰先生 准教授 山川みやえ先生
助教 粧屋絵理子先生

デベロップメントセンター共同研究テーマ
「医療・介護におけるICTを用いた多職種連携の実態調査」



杉木佐知子先生

修士号（看護学）
大阪府立大学大学院博士後期課程 在籍
大阪医科薬科大学看護学部 助教

主な研究テーマ
「新任看護師の臨床看護経験値（強み）を視覚化した人材育成ツールの開発」



高島佳之先生

修士号（看護学）
徳島大学大学院博士後期課程 在籍
梅花女子大学看護保健学部 助教
精神看護専門看護師

主な研究テーマ
「精神科訪問看護を行う看護師が精神科病院の看護師に求める情報」

研究者の皆様へ

私たちと一緒に 在宅看護の研究をしませんか？

研究者と実践者が集う開発センター
だからこそできる看護への探求があります。

「大学で教員をしながら開発センターでも研究する」
「訪問看護の仕事しながら開発センターで研究する」
研究の仕方は自由です。
研究環境の支援も積極的に行います。

まずはご連絡、ご相談ください。

企業の皆様へ

在宅の看護や医療を発展させる 製品・システムの開発に 協力をいたします

在宅の看護や医療を発展するための
製品・システムの質を高めたいという企業の皆様と
開発センターの研究や実践で連携をいたします。

ご連絡をお待ちしております。

アクセス

〒560-0085

大阪府豊中市上新田3丁目6-17-301

お問合せ

MAIL info@nana-dc.jp

TELL 06-7892-7634

インフォメーション

WEB 



<https://www.nana-dc.jp>

Twitter



@nana7rdc

なな一る訪問看護ステーションについて

WEB 



Instagram





お問合せ窓口

MAIL info@nana-dc.jp
TELL 06-7892-7634
所在地 大阪府豊中市上新田3丁目6-17-301

WEB 



Twitter

